

NEWSLETTER

No. 6

岐阜大学国際交流室

1989年6月12日発行

「航海日誌」

国際交流室長 藤 井 洋

これを読まれる方のうちのどなたかが、もし昨年8月16日の午前10時頃に潮岬におられたなら、その時沖を走っていた2隻のヨットを見られたことと思う。前夜台風12号が通り過ぎたばかりの素晴らしい快晴で、遠くの方に真っ黒い雲があるほかはいかにも夏らしい明るい陽が輝き、10ノット前後の心地よい風が吹いていた筈である。しかし、もしそのとき双眼鏡を持っておられたら、私の方のヨットの甲板上では二人の男が忙しく働いていたのを発見されたと思う。スクリューシャフトが船外に突き出している部分から異常な浸水があり、休みなく水を掻いだしていたのである。

11時頃にうねりが次第に高くなり、3m位になってきて、揺れる小舟の上でのこのあか汲み作業もだんだん苦しくなってきた。そもそも潮岬というところは流れの激しいところなので、これにうねりと海岸からの寄せ返しの波が重なってきて舵がうまく効かない。こうなってくるとヨットというのは、すべての部分がお互いに関連しているだけに始末が悪い。まず我々の古いセールの結びが少しづつ広がってきた。セールがばたばたし続けたためにセールを下向きに引っ張っているブームバングの滑車が一つ割れてしまって、ロープが千切れそうになる。代わりに部品を求めて道具箱を探っていると、船が次の波にぶつかった拍子に道具箱がひっくり返って、中の部品が床じゅうに散らばってしまった。船内で体じゅう打ち身だらけになりながら悪戦苦闘していたら、甲板上から「先生、空の様子が変わす！」とただ事ではない様子。あわてて飛び出して南の雲を見たときのその異様な景観は、これからも多分ずっと忘れたいと思う。後で知ったが、この日台風13号が潮岬沖に突如として発生し、潮岬に向かっていたのである。

セールを縮める暇もなくいきなり突風が襲いかかり、船が横倒しになる。訳もわからないうちに波高が6mぐらいにまで上がってきてコントロール不能のままに船が奈落の底に向かって飛び込んでいく。北を見ると潮岬の岸壁は砕け散る波のために、一面に立て回した真っ白な屏風のように、それも10分も経たないうちに狂ったように降り注ぐ雨の向こう側に消えてしまった。あの潮岬に打ち突けられたらひとたまりも無い。なんとか船を立て直し立て直しして南東に向かって走り続け、幸いにも5時間の悪夢の後に台風は去って行った。

そこで本題だが、僕が国際交流室長になれと言われて「はい」と言ったのは、この沖を白波をけたたてて快調に走っていた白い帆のヨットを見ていたからである。乗組員になったとたん台風風に巻き込まれるなんて考えてもいなかった。交流室の守備範囲は、外国人留学生・研究生・教員研修留学生が支障の無い大学生活を送れ、日本人社会へ適応できるようになるためのあらゆる援助、日本語クラスのプログラム作成と実施、協定大学との交渉、交換留学生のためのアレンジ、協定大学

からの短期留学（岐阜大学サマースクール）のプログラムづくりと実施等数え上げればきりが無い。これら全てがこの国際交流室によって運営されており、このような組織を持った大学は日本国内には全く例が無い。そして、このユニークな組織は活発に活動しており、岐阜大学における90名を越える留学生への対応には何の問題もなく、まさに順風満帆と見えていたのである。

ところが、これまでの日本語クラスの問題点がいくつか指摘され、新しいカリキュラムが作成され、後期から36コマのクラスを実施することにしたときに、はたと気が付いた。非常勤講師手当はこの36コマのうち6コマ分しか出せない！ 残りのクラスは全てボランティアの先生方に依存せざるを得ない。また、このクラスの実施を含めた他のあらゆる事務処理のために3人の方に大奮闘していただいているが、給料は1.5人分しか出していない。それも1.5人分で年間140万円の給与である。したがって、これまでこの交流室の予算案と言うものは立てられたことはない。なぜなら収入の見込みが立たず、支出の見当がつかないのだから、予算案の立てようがないというわけである。もっともな話ではある。

昨年度の交流室員の仕事は、まずこの予算案作りから始まった。国際センターの設立趣意書作りの過程でも随分ディスカッションを重ねてきた。室員の先生方がこの一年間に割いてこられた時間の総和は膨大な数字になる。しかし僕はこれらをいちいち数え上げることはしたくない。ただ一つだけ憶えていただいで欲しいのは、ボランティアの方々の献身的な御協力で、これなくしては交流室は運営できないという点である。やはりヨットというやつは、船の中でどんなに大騒ぎが起こってしようと、波頭をゆうゆうと乗り越えながら何の苦もなく走っているように見えなければならないと思うからである。そうでないとこの船に乗り込んでくれる人は誰もいなくなってしまうのではないか。

（工学部機械工学科教授）

国際交流室あれこれ



中島 智巳

国際交流室に勤めるようになって早2年が経過しました。去年の今頃は国際交流室長が変わり日本語のシステムはもとより、全体に大きく変化したばかりで、テンテコマイマイの毎日でした。私自身は当たり構わず出現する仕事や問題にどう対処して良いのかさっぱり分からずあちこちに迷惑をかけたものです。にもかかわらず人から「もう交流室に5年くらいいる人みたい。」と言われたのは、元来性格が図太いからでしょうか。

また、去年はルンド大学から第1回目の短期留学生を受け入れました。一昨年行われたアラスカ大学からの短期留学の受け入れとは内容も期間も全く異なるもので、ルンド大学一行が帰ったころには、浦島太郎になったような気分でしたが、いろいろな面で勉強できた2カ月でした。

一口に国際交流室と言ってもその内容は様々です。おかげで多くの人から「国際交流室ってどんなところなの？」とか「どんな仕事をしているの？」などと聞かれる度に返答に困ります。私達はよく言えば交流室の秘書ですが、別の視点に立って言えばなんでも屋さんです。留学生が増え組織が大きくなってゆくほど、交流室のムードも徐々に変わって行きます。喜ばしいことでもあり、逆にAT HOMEなムードが薄れていくことを思えば寂しい気もしますが、岐阜大学の国際交流室の本質だけは守っていきたいと思っています。

昨年1年間を振り返れば早かったように感じる反面、本当にいろいろなことがありました。よく反省してみると、トンデモナイ量のミスが次から次へと浮上ってきます。おかげで心臓が殆ど擦り切れてもう原形をとどめていない方や、反対に強化された方などいらっしゃるようですが・・・

この場を借りてお世話になった方々、大変失礼してしまった方々にお礼とお詫びを申し上げたいと思います。そして今年度もまた留学生及び国際交流室に対して深くご理解下さるようお願いします。(特に個人的なミスを許して下さいということでは・・・ありません。)

(国際交流室事務員)

松井 浩子

「はい、国際交流室です。」の声だけは聞いたことがあります。という方も多いかと思います。今年で4年目に入った交流室での仕事で、我ながら驚くことの1つは、出逢ったり接したりする人の多さです。

留学生はもちろん、学生さん、地域の国際交流団体のみなさん、ボランティア活動をしていらっしゃる方々、その他ホームステイの御家族など、交流室を中心にして年々輪が広がっていくように感じます。

留学生との考え方の違いによる誤解を解くという仕事も少なくありませんが、こうして少しずつでも、留学生には日本人、私達日本人は留学生を理解し、協力し合って行けたらいいな、と思っています。

できれば、日本の学生がもっと積極的に世界に目を向けて、留学生と接することができれば、留学生の日本に対する印象も変わってくると思うのですが……。

岐大生の皆さん、あなたたちが与える印象がそのまま「日本の学生」として、母国に帰る留学生の胸に一生の思い出として残るのです。今のままで本当にいいですか。

私たちはみんな、常に日本人代表なんですね。

(国際交流室事務員)

森 瀬 純 子

みなさん、こんにちは。この国際交流室にお世話になりはじめて、もう2年目になりました。最初の頃は、交流室にいても要領がわからず、「借りてきた猫」のようでしたし、毎日が驚きと発見の繰り返しでした。交流室にいて、各国の留学生と接することが出来るし、考え方の違いにもなんとか対処できるようになったと思います。

今、交流室で毎日、留学生のための日本語の授業を行っています。留学生の日本語を習おうとする姿はあまりにも情熱的で、日本の学生には、ぜひ見習ってほしいです。そして、同じ学内に留学生が勉強しているのだから、この貴重な機会を大いに利用してほしいです。

今年もまた留学生との悪戦苦闘の毎日が続くと思います。至らない点もいくつか出てくるでしょうが、最善をつくすつもりなので、よろしくをお願いします。

(国際交流室事務員)

日本の女性について

マッツ・アンデルソン



ほかの国の女性には特別な引力があると思う。「隣りの芝生は青い」ということわざもあるだろう。というのは、不思議な物、異国風の物にはいつも特別な魅力がある。

私にとっても日本に初めて来た時には女の人はみんな大変可愛く見えた。本当に魅力があった。けれども、再度日本に来た今、見方が少し変って来た。第一印象は外見的な面が目についてしまう。しかし、その後はそれだけではなく全体的な面、特に精神的な面が大事になる。

この面から日本の女性を見るとどうなるだろうか。まず、日本人の理想の女性は西洋と大部違う。日本の理想的な女性のイメージとしては弱さと純真さを強調することだ。というのは、日本の女性は子供のように、少女のようにしようとしている。自分は何も分らない、何も知らない、何もできないというイメージを保とうとしている。従ってふるまいもまったく子供のようだ。例えば歩き方・話し方・服等は弱さや受身を強調している。その上個性や特色は本当に少ない。

これに対して私の理想の女性は精神的に強くて、知的で、ユーモアがあって、積極的で、芸術にも感心を持った人— すなわち特色がいっぱいあって自立している人間。だから私にとって、残念ながら日本の女性は、第一印象に比べ魅力が少し減ったような気がする。

これからは日本の女性にも外見よりも内面的なものを大事にしてもらいたいと思う。そうすれば日本の女性をもっと魅力的になれると思う。

教育学部特別聴講学生 (小沢)

ルンド大学に短期留学して

安江文尾

以前から、感受性の豊かな内に、日本と両親から離れて、違文化の中で、カルチャー・ショックを体験したいという思いが強く、なかなか“うん”といわない両親を説得して、昨年の8月上旬から下旬にかけての三週間強あのバーグマンの国、スウェーデン、ルンド大学へ、短期留学として訪れました。ここでは、スウェーデン語や、スウェーデンについての授業を受けたり、ニルスのようにスコーネ地方(南スウェーデン)への小旅行。小学校、博物館、工場見学、ホームステイなど、もりだくさんのことが、計画されていました。私は、これらを通して、スウェーデンの国のシステムや、スウェーデン人の気質、生活習慣を、三週間強分、体験することができました。スウェーデンの人口は、日本の人口の10分の一にも満たず、国土面積は、日本の1.2倍です。それに、スウェーデン人の環境に対する意識の高さが加わって、街は緑にあふれていました。特にルンドは、昔ながらの家々が今も生活の中で生きずいていて、本当に美しい町です。滞在したグランドホテル自体、古い建築物で、その近くには、12世紀に建てられた大きくて、どっしりとした教会があり、その中では、14世紀の時計が時を刻んでいます。教会の中は、ひんやりとして気持ちがいいのですが、教会の地下に行くとお墓があって、もっと涼しくなれました。お墓の上に教会を建てるという考え方

には驚ろきましたが、教会側の好意で、クリスチャンでもない私達は、洗礼を真近で見せていただけで、なにかしら、尊敬な気持ちになりました。人々の間に根ざすキリスト教を感じました。小学校を見学し、そこで「スウェーデンには亡命者、移民が多いことにも関係しますが、スウェーデン語以外を母国語とする子供達のために、その子供の母国語と、スウェーデン語を、個人レッスン又は、2～3人の小人数で教えるシステムが、とられています。これは大変お金がかかりますが、両方の国を尊重しているからです」という話を聞いて、又学校内だけでなく、現実に、いたる所で、福祉国家としてのスウェーデンの姿がみえました。

スウェーデンでのエピソードは3週間強分あって、上にかいたことは、ほんの一部でしかありませんが、とても書ききれません。そこで、私は、スウェーデンについて、一番考えたことを書いてしめにします。それは、日本や、日本人についてです。というのも、私が日本人だと知ったスウェーデン人は必ず「日本はどんな国ですか」といった類のことを聞いてくるし、ちょっと通の人なら伝統的なもの一着物・俳句etc-について説明を求めてきます。その度、私は、日本について知らないことが多いということを感じました。外に出て、内のことを知る良い機会でした。

(教育学部史学科2年)

スウェーデンでの体験について

栗本光彰

まずはじめに、自分は、とても貴重な体験をすることができて、とても感謝しています。一年生のうちから、約一ヶ月も海外で生活できるなんて自分には、夢のような話でした。在学中には必ず外国へ行きたいと思ってはいましたが、なかなか決心はつきません。自分は数学科なので、べつに留学して英語の勉強をしたりする必要はないと思っていたし、この短期留学に参加する人は英文科の人たちばかりだと思っていたので、親がお金を出してやってもいいぞといっても、二年生があると思ったし、一年生のうちからぜひいってほしいと思っていました。しかし、それはまちがいでした。一年生のうちだから、時間がたっぷりあるし、気持ちも楽だし、卒業までの三年間に、また行けるチャンスができるかもしれないのだから、もし一年生の人でまよっている人がいたら、絶対に行った方がいいと思います。

ぼくは特に英語ができるわけではありませんし、将来外資系の仕事に就こうと思っているわけでもありません。本当に楽しんでこようというつもりで行きたかったのです。実際にスウェーデンに着くまでにソ連で一泊するのですが、それだけでも、全ての経験が新しいことなので、とても楽しかったです。スウェーデンに着いて最初に楽しんだことは、二人で、町を歩いて、アイスクリームを買いに行ったことです。ほとんど英語になっていない英語で通じたのはやはりうれしかったです。そして帰りに老夫妻に会い、写真を取ってくれるようにたのみました。やっぱり、外国人と、意志を通じさせることができるというのは、とても気持ちのよいことです。日本人にはない感情や、やさしさなどを感じることができます。色々な体験をしましたが、ここでは、書けませんからやめにしますが、スウェーデンで、私たちとルンド大学の人たちと、パーティーをした時に、日本の企業の人も一人参加しました。その人が偶然ぼくの出身高校と同じ人つまり、先輩でした。その人に色々話を聞きましたが、会社に入ると、まず初めに外国に行くか行かないか聞かれるそうです。やはり、英語ができると、外国に行かしてもらえらるということで、これからの国際社会、英語は必ず話せなくてはならないと感じました。

とにかく色々な体験をさしてもらえた短期留学でした。こんな期会は一生に今しかないと思います。

(教育学部数学科2年)

(資料1)

岐 阜 大 学 留 学 生 数 (その1)

平成元年4月1日現在

学部 区分 国 名	教 育 学 部			医 学 部			工 学 部			農 学 部			教 養 部			小 計			合 計
	国	外 国	私	国	外 国	私	国	外 国	私	国	外 国	私	国	外 国	私	国	外 国	私	
	費	政 府	費	費	政 府	費	費	政 府	費	費	政 府	費	費	政 府	費	費	政 府	費	
韓 国						1			1	1		2				1		4	5
中 国				6(1)				1	7(1)	2(1)		4		1(1)	8(2)	1	12(2)	21(4)	
台 湾						3			1			2					6	6	
タ イ	2(1)														2(1)			2(1)	
ビ ル マ			2				1		5(1)			1(1)			1(1)		8(2)	9(2)	
マレーシア				1			4	4(2)	5	1					6	4(2)	5	15(2)	
フィリピン	2(2)			3(2)			1			1					7(4)			7(4)	
インドネシア									4(1)								4(1)	4(1)	
イ ン ド															2			2	
イ ラ ン				1											1			1	
ユーゴスラビア							1								1			1	
ト ル コ				1											1			1	
スウェーデン			2(1)														2(1)	2(1)	
アメリカ			4(2)			1(1)											5(3)	5(3)	
メキシコ	1														1			1	
ブラジル	1(1)			1		2(2)									2(1)		2(2)	4(3)	
チ リ				1											1			1	
ガ ー ナ										1					1			1	
チュニジア							1								1			1	
ウルグアイ				1(1)											1(1)			1(1)	
ザ イール										1					1			1	
小 計	6(4)		8(3)	15(4)		7(3)	10	9(3)	19(2)	7(1)		9(1)		1(1)	38(9)	9(3)	44(10)	91(2)	
計		14(7)			22(7)			38(5)			16(2)			1(1)					

() 内は、女子の内数を示す。

岐 阜 大 学 留 学 生 数 (その2)

平成元年4月1日現在

学部 区分 在籍身分	教育学部			医学部			工学部			農学部			教養部			小計			合計
	国	外国	私	国	外国	私	国	外国	私	国	外国	私	国	外国	私	国	外国	私	
	費	政府	費	費	政府	費	費	政府	費	費	政府	費	費	政府	費	費	政府	費	
大学課程							8		8	6		5				14		13	27
大学院				11												11			11
博士課程				(2)												(2)			(2)
学部学生						4		8	8			1					8	13	21
研究生			3	4		3	1	1	4			3				6	1	13	20
教員研修	5															5			5
留学生	(3)															(3)			(3)
特別聴講学生	1		5													1		5	6
聴講生	(1)		(2)													(1)		(2)	(3)
小計																			
合計	6		8	15		7	9	9	20	7		9			1	37	9	45	91
	(4)		(3)	(4)		(4)	(3)	(2)	(1)	(1)		(1)			(1)	(9)	(3)	(10)	(24)

() 内は、女子の内数を示す。

(資料2)

〈新しく4月から加わる留学生〉

教育学部	CHRISTINA WIRÉN EVA MAUNG MAUNG LWIN	スウェーデン 女 ビルマ 男	WIN NAING	ビルマ 男
医学部	MOZO-LORENZO MA TERESA GUTARTE DILBAZ SERDAR 松井 峰子 タニア	フィリピン 女 トルコ 男 ブラジル 女	DECARLINI ESTELA MENGOTTI 拓植 マルガレート 美代子 王 聖明	ウルグアイ 女 ブラジル 女 台湾 男
工学部	ABD RAHMAN SHAMSUDDIN 胡 彬 陳 崧 AUNG HTOO	マレーシア 男 中国 男 中国 男 ビルマ 男	THET HNAUNG 呉 有紅 KWA KYI SEIN	ビルマ 男 中国 男 ビルマ 男
農学部	KUBATA KILUNGA 劉 安軍 宋 項光 趙 鏞訓	ザイール 男 中国 男 中国 女 中国 男	李 喆熙 蘇 都那 余 青柏	韓国 男 中国 男 中国 男
農学部	朱 果	中国 男		

(資料3)
'89

ルンド大学夏季短期留学スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4
6/5 ルンド8週間 コース ガイダンス	6/6 日本語授業	6/7 日本語授業	6/8 日本語授業	6/9 日本語授業 Welcome Party (国際交流室 主催)	6/10	6/11
6/12 日本語授業	6/13 日本語授業	6/14 日本語授業	6/15 日本語授業	6/16 日本語授業	6/17 6/18 Optional Tour Yacht Sailing	
6/19 日本語授業	6/20 日本語授業	6/21 日本語授業	6/22 日本語授業	6/23 日本語授業	6/24	6/25
6/26 イクスカー ション ガイダンス	6/27 日本の経済・ 会社組織	6/28 トヨタ・サッ ポロビール研 修	6/29 日本の先鋭技 術	6/30 ヤマザキマザッ ク研修	7/1	7/2
7/3 日本の歴史・ 日本人の生活	7/4 飛騨高山研修 乗鞍 (平湯 泊)	7/5 平湯温泉 (高山 泊)	7/6 高山→郡上八 幡→岐阜	7/7	7/8	7/9
7/10 日本仏教と仏 像 日本の建築	7/11 奈良・京都研 修 奈良 (京都 泊)	7/12 京都 (京都 泊)	7/13 京都→岐阜	7/14	7/15	7/16
7/17 日本語授業	7/15 日本語授業	7/16 日本語授業	7/20 日本語授業	7/21 日本語授業	7/22	7/23
7/24 日本語授業	7/25 日本語授業	7/26 日本語授業	7/27 日本語授業	7/28 日本語授業 Farewell Party	7/29	7/30
7/31 日本語授業	8/1 日本語授業	8/2 日本語授業	8/3 日本語授業	8/4 日本語授業	8/5	8/6

(資料4)

時間割 1989年度 前期

	月	火	水	木	金	
9:10	1	・日本語クラス 1 及川	・日本語クラス 3 河合 ・PTPクラス 加藤 PANWONG(10:00~12:00)	・日本語クラス 5 加藤 ・PTPクラス 渡辺 -YUNUS	・作文クラス 河地	・PTPクラス 田中-ALICIA
10:40	2	・日本語クラス 2 後藤 ・日本語上級クラス 加藤	・日本語クラス 4 河合	・生け花クラス 田中(亨) ・PTPクラス 河野-張 ・PTPクラス 大橋- CHRISTINA ・PTPクラス 毛利-PANWONG ・PTPクラブ 西村-ジョージ	・新聞聴読クラス 河地 ・PTPクラス 六郷-趙 ・PTPクラス 米増- FRANK	
12:20					☆英会話クラス (12:30~13:30)	
13:30	3	・基礎漢字クラス 加藤 ・PTPクラス 大野-SONIA ・PTPクラス 松井- FRANCOISE	・PTPクラス 篠藤-MATS ・PTPクラス 脇田-MEGUMI ・PTPクラス 加藤-JOSEPH	・洋裁クラス 江口 ・PTPクラス 西村-SUZANA ・PTPクラス 松井- FRANCOISE ・PTPクラス 伊藤- SHAMUSDDIN ・PTPクラス 田中(亨)-黄	・PTPクラス 米増-尹 (12:45~15:00)	・日本語クラス 6 廣田 ・PTPクラス 河野 MATS
15:00	4	・REVIEW TEXT 加藤 ・PTPクラス 大野- マガレーチ	・日本語クラス 8 後藤	・PTPクラス 河地- TERESA (16:00~17:30)		・日本語クラス 7 廣田 ・MODERN JAPANESE 加藤 ・PTPクラス 古田-MINDA
16:40						

岐阜大学国際交流室室員名簿

(任期 63. 4. 1~2. 3. 31)

所 属	職 名	氏 名	備 考
工 学 部	教 授	藤井 洋	国際交流室室長
"	助 手	松本 忠博	
教育学部	教 授	藤掛 庄市	
"	"	小澤 克彦	
"	助教授	廣田 則夫	日本語・日本事情教育主任
医 学 部	講 師	江崎 孝行	
"	"	前田 學	
農 学 部	教 授	篠田 善彦	
"	"	河合 啓一	国際交流室 会計担当
"	助教授	堀内 孝次	国際交流会館 主事
教 養 部	助教授	吉田 稔	
"	"	寺島 隆吉	
短期大学部	助教授	松浦 晃次	
"	講 師	藤田 一郎	

<日本語 日本事情教育 非常勤講師>

河 合 雅 子
加 藤 由 紀 子
河 地 忍
及 川 由 利
後 藤 規 子

<国際交流室 事務員>

松 井 浩 子
中 島 智 己
森 瀬 純 子

<昭和63年度 国際交流室 行事報告>

4月5日	ボランティア昼食会
11日	日本語クラス スタート
6月3日	ルンド大学一行来日 8週間コース開始
7月5日	第1回 国際理解教育の集い(カメルさん、ミルボドさん)
29日	ルンド大学 夏季短期留学終了
9月20日	第2回 国際理解教育の集い(スチッターラーさん、ジョンさん)
22日	交流室 前期授業終了
10月11日	交流室 後期授業ガイダンス
12日	日本語クラス スタート
16日	第3回 国際運動会
26日	ボランティア昼食会
11月29日	第3回 国際理解教育の集い(李さん、サンチャゴさん)
891月28日	第3回 国際日本語スピーチ大会
2月23日	交流室 63年度授業終了

■ 編集後記

例年よりずっと早い桜の季節もあっという間に終わり、緑の美しい今日この頃です。

さて、News Letter が一年余りのお休みをいただいている間に、国際交流室のスタッフが変更したり、留学生の数が増えたり、日本語等の時間割やシステムが変わったりしました。そして、その変化になんとか対応すべく、その関係者が走り回ったという感のある一年でもありました。これからどういう発展があるのでしょうか。恐しくもあり、興味もあり……という所です。

今年は何とか一年に三回ほどはこの News Letter を出したいと考えていますので、私共が記事のお願いにうかがいました時には、どうぞ笑顔で迅速に(まるで出前持ちのようでしょうか?)ご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。(Y. K)

発行 岐阜大学国際交流室
〒501-11 岐阜市柳戸1-1
電話 (0582) 30-1111
内線2380/2381
編集 藤田一郎・加藤由紀子